

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105920		
法人名	有限会社 和(なごみ)		
事業所名	グループホーム やすらぎ東古松		
所在地	岡山市北区東古松南町4-35		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105920&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成26年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の親が安心して預けられるグループホーム。
 そして入居しているバックを支えている家族も将来入りたいと予約したいホーム。
 現在入居している方々に感謝されるホーム。(地区の小学生が取材に訪れて「こんな所が一杯増えたら家族も楽で私らも楽しいのになあ」と入居者が言っていた。)
 そして退去後も家族の方が訪れるホームです。又、介護度が良くなって、小規模多機能に移って頂く例も多くなっています。目標達成計画に掲げて取り組んできた「家族との連携」や「共用空間の活用」も目標を達成することができた。花壇には四季の花を楽しめるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪に住む管理者は「実母の世話をしたい」として「故郷の岡山の人にも安心して自分の身内を任せられる第二の家を」と考え、平成16年に6人の利用者のホームを立ち上げた。その後9人の仲間が増えるのを見届けたように、百四歳目前の実母はここで大往生を遂げて、この家の暮らしの有りようを証明してくれた。9人のホームになっても、以前の「リビングの狭さを逆手に取って続けてきた毎日の散歩」や「薄味で品数の多い美味しい食事」「さあ、今日は何をしますか?で始まる種々楽しみ事や各自の得意な事」は継続されている。利用者同士の会話や、時には大笑いになるやりとりもある。今日は暖かな日差しのあるホームの前庭でしりとり遊び。活き活きとした応酬に私達も仲間に入れてもらって楽しい時間を過ごしながら、時には言葉に詰まり利用者に助けをもらおう場面もあった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のみならず往診に来て下さっているドクターが将来はこのホームに入りたいと言って下さっているし、近くの住民も「入る様になったら入れて下さいね」と言っている。	「自分の身内を住ませたいホーム」を実現化し、多方面でも活躍している管理者と職員が一体となって、利用者に手厚い介護と「家庭のぬくもりを感じさせる大家族の良さ」を貫き通している。地域の人やかかりつけ医からも理解や信頼感を持たれ、地域への貢献度も高い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達が(大人も子供も)時々庭になっている柿や田舎から送って来たと言ってみかんや野菜の差し入れを下さったり犬や猫と一緒にホームに立ち寄って下さる。	日課である散歩には、近くの公園へ隣家のおばあちゃんも一緒に散歩に行く等、ホームの利用者と近隣住民とは日頃から交流がある。また、近所の高校生が「鍵がかかっていて家に入れない」と、ホームへ気軽に立ち寄って休んで帰る等、地域との繋がりも深く、信頼関係も出来ている。	地域の人達との日常的な交流や行事等でのつき合いに加えて、認知症対応へのアプローチや介護保険の有効な活用方法等、住民にわかり易く伝える貢献をさらに期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回催される地域の人達と会合に昼食をはさんで出席、情報交換しており、ホームを見学して少し体験して頂く様に地域の人にもおすすめしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の高齢者が自由に集える場所ができたらとの要望があり、出来る限りの努力を惜しまないと伝えており、いつか実現したい。	老人会や地域の人の情報交換、意見交換の場である地域の運営委員会に管理者も参加してバックアップしている。月1回、集会場や近所の喫茶店で茶話会を兼ねて集っている。ホームの現状を報告する地域交流会として、おおいに活用している。	運営推進会議の開催の形について、例えば「ホームのリビングで利用者も参加してお茶を飲みながら、とか、近所の高齢者も希望者には来ていただく」等、柔軟に考えて出来る話し合いの場にしても良いと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは地理的に近く(同じ小学校区)でもあるので度々密に連絡を取っており、担当者とは全てにおいて把握して頂いている。	管理者は些細な事でも市の担当者に相談し、常に助言や指導を受け、書類の見直しも行なっているところである。日頃から、市町村担当者とは連携をこまめに取っており、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に施錠しておらずドアホンをしないでいきなりドアを開いて訪問される事も多い身体拘束は一切ない。	気候の良い時は、玄関を開け放し、前庭で椅子を並べてレクをすることもあり、いつでも誰でも自由に出入りできる状態になっている。日頃から職員が目配り気配りしながら利用者を見守り、十分な安全対策を図っており、このホームでは身体拘束は一切ない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は常に学ぶ機会を持ち近隣のグループホームと連絡を取り情報を交換している。又、それらを活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者も職員もあらゆる方向にアンテナをはり情報を共有し運営に反映させている。又家族にも出来るだけホームを訪問して頂ける様こまめに電話をして情報を流す様になっている。	玄関には意見箱を設置すると共に、行政、国保連の苦情相談窓口の連絡先を明記し掲示してある。訪問する家族も多く、いつでも気軽に話し合える体制になっている。遠方の家族とも連絡を取り合い、近況報告や本人・家族からの意見・要望等にも耳を傾け、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見や提案を聞いてその都度すみやかに反映させている。又、時々は外で食事をしながらのミーティングもしていて話し易い雰囲気も作っている。	月1回、職員会議を開催しており、利用者同士の和を保つ為の工夫等、職員間でケアの方法等話合っている。管理者は職員と個人ミーティングをして個々の働き方について相談に乗る等、意見や提案等を話し合い、運営に反映させている。	介護職全般の就業環境も厳しい中、管理者は個々の職員の希望や要望に可能な限り耳を傾けようと努力し、職員の休憩場所の確保の話も出ているので良い結果となればと思う。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ休日等の条件を十二分に取り入れるように管理者は努めている。個々の職員が力を出し切れる様に職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人個人が研修で学んだ事を職員が職場で発揮できる様工夫したり、より深くかかわれるように管理者が注意していくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームやデイサービス、小規模多機能の業者の方のネットワークで助け合ったり教え合ったりお互いに協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからかなりの時間、特別に余分な人員を配置して早く慣れて頂く様配慮している。本人が希望する事は出来るだけ受け入れて差し上げ、家族との電話や喫茶店で会ったりして不安を和らげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には家族に頻繁に電話等で連絡を入れ状況報告をして不安をなくす様に努めている。又細かい事でもこまめに情報を電話で入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人が今一番望んでいるサービスを家族の身になって対応に努めている。例えば内科・皮膚科の診察は家族の代わりに支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべくして差し上げるのではなく自分のやれる事を尊重して見守りながらして頂いている。例えば洗濯畳など出来ない人でも支援しながら一緒に手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と頻繁に連絡をとり、共に見守ろうと呼びかけている。又誕生日などには家族も一緒に祝いの席について頂ける様頼んだりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来やすい様に支援。又、連れ出して頂いて関係継続が途切れない様になっている。又、連れ出しが難しい家族に代わってこちらからドライブ等連れ出して馴染みの人達に会える様配慮している。	近くの店に「お好み焼き」を利用者・職員で食べに行ったり、家族と一緒に食事に出かける人もいる。地域の人からの野菜や果物の差し入れもあり、気軽に立ち寄ってくれる人が多い。時には利用者の家族問題の関係修復に管理者が一役かう事もあるそうだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々トランプや他のゲームを一緒にして連帯出来る雰囲気を作り出している。皆と一緒に歌を歌ったりして楽しんだり個々が好きな事をして頂いて(例えば手芸や塗り絵・写経等)個人を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻ったり他の施設に移っても訪問してその後の様子を確認している。他の施設に移って亡くなった方も家族が盆や暮れに訪ねて来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を取り入れそれに添う様努力している。例えば家事が得意な人には洗濯畳や掃除を手伝って頂いたり、そうでない人は脳の刺激となるジグソーパズルや百人一首・手芸・写経等で楽しんで頂いている。	部屋でゆっくり休みたい人には、食事も部屋食にしたり、日課の散歩も個人の意思を尊重して自由参加にしている。「お手玉」や「童謡カルタ」を一緒にする人、途中で参加する人、一人でのんびり寛いでいる人、それぞれ思い思いに過ごし、職員は利用者の自主性を重んじていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から出来るだけ詳しく聞き取りそれらに合わせて好き嫌いもなるべく希望に添う様にしているがいつの間にか嫌いなものも無くなっていて家族もびっくりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調に合わせてなるべく活動的に過ごして頂く様努力している。朝は毎日室内で体操・風船バレー等で体を動かしたり、午前の散歩は車椅子の人、シルバーカーの人と、その人に合わせて日中はなるべく起きて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの家族、本人の意見を尊重、職員とディスカッションをしてそれらを反映して介護計画を作成している。	介護計画書とモニタリングは3ヶ月毎に作成している。一人ひとりの心身の状況の変化に合わせて、プランの変更等、柔軟に対応している。アクティビティも種類が豊富で、利用者の介護度が安定しているのも、脳の活性化を促す日々の取り組みが大いに関係していると思う。	利用者本人の、今日に至るまでの情報を少しでも得て、より良いケアにつなぐために、家族に記入してもらおうアンケートを始めようとしている。これは貴重な資料になると思うので、是非継続して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の共有でその都度気付いた事は連絡ノートや会議録で詳しく情報が共有され密に連絡を取って介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合で対応出来ない様な時でも管理者がそれを補いサポートしている。 例えば入院しても毎日病院に顔を出し洗濯物はホームで洗って病院に持って行ったり通院もホーム側でする事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2カ月に1度ぐらいある町内の行事にも積極的に参加しており町内の一員としての役割を楽しんでいる。 例えば地域の盆踊り・お祭り・もちつきに入居者も参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは深夜でも携帯で連絡が出来安心して任せられ適切な医療を受けられている。 ホーム側からも密に連絡してどんな症状も見逃さず共有している。	ホームのかかりつけ医から毎月2回、2名の医師が交代で往診にきてくれる。「ここは食事がいいから年を取ったらこのホームに入りたい」とドクターが言ってくれる程、日頃から何でも相談でき、信頼関係も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は訪問看護師やドクターと連絡を取りながら即行動が出来ている。例えば薬が変わったりした時など副作用の出方に注意して観察。ドクターと密に協力して処置出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院中は家族以上に病院とは密に連絡を取り、家族に代わって洗濯物の交換等ホームで行っており、主治医からも家族と同様に扱ってくれて家族と同様に情報を流して下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して自分で食事が出来なくてもホームで職員が補助して食して頂き、ホームでの看取りも経験して職員も自信をつけている。	開設以来ホームの歩みと共に過ごしてきた〇〇さんが、家族・職員に見守れながら103才の天寿を全うした。職員にとっても看取りは初めての経験であり、今後のターミナルケアに向けての自信にも繋がった。本人・家族からの要望があれば医療機関とも相談、連携を取りながら取り組んでいこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ドクターの指示を仰ぎ救急車が来るまでバトタッチが出来る様血圧等色々な情報がすぐ届けられる様職員も訓練出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	すべての部屋より出口に直結しているので迷わず時々の訓練と同じに避難できる。 年2回の訓練では短時間で避難出来ており体の不自由な人には職員が付き自分一人で避難出来る人は声かけしながら訓練している。	南海トラフ地震に備え、町内会、行政と話し合った。緊急時の避難場所としてホームのすぐ近くの高いビルを申請しているが、その後の返答はいまのところない。年2回の避難訓練もしており、火災報知機に加え、今年度はスプリンクラーの取り付け工事をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は年長者に教えて頂く様に誇りを損ねない様声かけをしたり又なるべく昔の元気があった頃得意だった事を聞いて自信を取り戻してもらっている。	利用者の一人ひとりの状態を把握して、食事に時間がかかる人には「朝・昼・夕食を2回に分けて計6回」とし、栄養面も考慮し、ゆっくり食べてもらえるような工夫をしている。食事介助時やトイレへの声かけにも、その人を尊重した言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの様にしてもらいたいのか時々希望を聞いたり喫茶店等にも連れ出したりしている。外食も時々行い、楽しんで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中、雨の時以外は散歩に出るが行きたくない時はホームにいて他の事が出来る様希望に沿っており、庭に出て、日光浴をして頂いたりもする。又家族と一緒に出かけたりホームから祝事や法事や一泊旅行にも出席している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日はどんな服が良いのか個々に聞き、選んでもらったり時々マニキュアやお化粧品も職員が手伝ってして頂くととても楽しそうにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事は味はもちろん色でも楽しんで頂き希望を聞いて希望に添った献立にしたりしている。毎月1日は赤飯、行事会はお寿司で御馳走を作っている。又誕生日などは家族と一緒に会食して頂いている。	開設当初から3食とも「うす味、野菜中心の30品目」の献立は面々と続いている。調理担当者が変わっても、このホームの“味”は変わらない。また、利用者の目の前で盛り付けや配膳の様子も、食をそそる良い刺激となっている。毎食、楽しみにしている人も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなるべく多く取って頂ける様三度の食事以外にも10時・15時のおやつ以外にも度々口にして頂く。栄養士も居て、栄養的には1日に30品目を摂取出来るのを目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っており、その都度入れ歯のチェックも行っている。又週1度は入れ歯洗浄液で清潔を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを職員が把握して声かけして全員トイレに誘導しており失敗を極力少なくしている。入居の時紙パンツだったのが布パンツや失禁パンツに改善される例が多い	比較的元気な人が多く、自分でトイレに行く人が多い。利用者の状態に合わせ、一人ひとり使用しているパットが違う。職員間で話し合いながら、その時々個々の状態に合わせ種類、大きさ等適宜、変更をしている。また、職員はパット対応一覧表で情報を共有しながら排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取の他、便が出易くする薬でこまめに調節出来ているので個々に排便で困る事は殆どない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が望ましいが隔日か隔々日には必ず入浴。又失便等により連日も実施。ゆったりしたい人には個々にそって歌を歌ったり楽しくおしゃべりしながら入っている。	2~3日に1回の入浴を基本としている。入浴拒否の人1名いるが、声掛けやタイミングを工夫しながら無理のない範囲で支援している。中には息子さん以外は受け付けない人もいて、月1回息子さんが「爪切り」にきてくれる人もいる。大半の人は職員と歌を唄ったり話をしながら楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもベットで休息出来るがなるべく日中はリビングで過ごす為、夜は安眠出来ていて昼夜逆転する様な事はない。もしその兆候があればドクターと連絡を取って軽い眠剤で殆ど解決しており基本的には薬は少なくしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターと密に連絡を取りながら用量も抜いたり追加したりと変化に応じて支援している。症状の変化には管理者に即報告がありドクターより受診の必要があればすぐ連れて行き診察して頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	町内の行事に参加したり誕生会や外食・お花見等きつくならない様に気を配りながら支援している。又編み物や刺繍の完成で達成感も味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中、雨でない限り散歩に出かけ、町内行事にも積極的に参加し顔馴染みとなっている。喫茶店・病院への外出も家族同様に支援している。家族の祝事や法事等も積極的に(ホームで送り迎えをしたりして)出席出来る様支援している。	日課となっている散歩も毎日行ける人と、そうでない人の2班に分けている。利用者のトイレ等の支援の関係もあり、職員は携帯を持って出かけ、即連絡を取り合えるようにしている。利用者・職員一緒に近所の店でお好み焼きを食べたり、イトーヨーカドーに買い物に行く等、出来る限り外出する機会を作り、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にホームより職員と一緒に連れだつて出るがそれぞれに欲しいものを買って頂きホームで支払いしている。すべてホームの食費として支払い本人からは頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたい時は電話をかけて頂いたり手紙を書いたものをポストに入れたり支援している。又かかってきた電話も電話口に出て頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にリビングを飾りその飾り物と一緒に作成したりしている。花々も庭に植えたり室内に生けている。夏には庭に野菜も植えて実りの楽しさを味わって頂いている。	殆どどの利用者がここで日中過ごしているリビングルーム。利用者同士の関係にも職員は心を配り、状況を見ながら「席替え」も度々行い様子を見ながら、人間関係が円滑にいくよう支援している。皆が気持ちよく過ごせる空間づくりを目指して、職員は日々、努力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルの人との話で職員は見守りして話に花が咲いている時は聞き役に徹している。又、一人になりたい人は自室に入ってテレビを見たりして一人を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家で使って頂いた物を持ちこんで頂き安心して居室で過ごして頂ける様に支援している。読書の本、趣味の本など家族も自由に差し入れている。又仏壇の持ち込みもされている方もいる。	各居室には使い慣れた個人々の持ち物が置いてあり、仏壇、写真、人形等々、馴染みの品々に囲まれ落ち着ける室内である。北側の居室には天窓があり、採光を取り入れる工夫もしてあり、暮らしやすい環境となっている。中には認知症の状態に配慮して、室内をシンプルなレイアウトにしている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員に余力があるのでゆったり見守りが出来ている。余りこちらが手を出さず、なるべく時間はかかっても自立に近づけている。又トイレには「トイレ」と書き「洗面所」や各個室に名前を書いて判り易くしている。		